

第四回 キセラ川西 エコまち建築賞 選考結果及び講評



1. 選考対象

- ・令和元年度に完了報告が提出された物件は「8件」でした。
- ・このうち、エコまち建築賞選考対象の条件を満たす物件は「5件」でした。
ラベリングの結果、低炭素・景観いずれも 3つ以上獲得、かつ、低炭素・景観どちらかで 4つ以上獲得
- ・選考対象の「5件」のうち、指定建築物（公共施設、または敷地 3,000 m²以上）は「3件」（オアシスタウンキセラ川西、ロイヤルホームセンターキセラ川西店、川西市消防本部・南消防署）で、指定建築物以外の一般建築物は「2件」でした。

2. 選考経過

- ・選考会を令和2年11月9日（月）午後1時～午後3時に、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、川西市役所庁議室及びオンラインで開催しました。
- ・選考対象物件の説明後、実施要領に基づき、5名の選考メンバーが採点を行い、それらの点数を合計、対象物件毎に総合点を算出しました。
- ・協議の結果、総合点の上位「2件」をエコまち建築賞受賞物件として選考しました。

3. 選考結果

第四回 エコまち建築賞受賞物件 2件

(1) オアシスタウン キセラ川西

用途：店舗、保育所
建築主：株式会社阪急オアシス
設計者：株式会社類設計室
施工者：株式会社イチケン 関西支店

(2) 川西市消防本部・南消防署

用途：消防署
建築主：川西市
設計者：株式会社ユニバァサル設計 西日本支社
施工者：株式会社ナカノフドー建設 大阪支社

4 . 講評

(1) オアシスタウン キセラ川西

本建築は、キセラ川西の中心部に位置する大規模な複合商業施設であり、エコまち運用基準に基づく取り組みが求められました。

低炭素分野では、施設中央部の吹き抜け空間として光と風が通り抜けるパッシブデザインを導入したほか、せせらぎ遊歩道と一体となった開放感のあるオープンテラスを設けるなど、半屋外空間で人が快適に過ごしながらも空調を不要とする空間デザインを積極的に取り入れました。

また、低炭素交通に配慮し駐車場の緑化や EV (電気自動車) 充電施設の設置など、運用基準の各項目に意欲的に取り組み、CASBEE (建築環境総合性能評価システム) B+ランクの取得を実現されました。

緑・景観分野では、せせらぎ遊歩道と一体となった賑わい空間の整備や一体的な維持管理、地被植物から高木まで訪れる方が楽しめる季節感のある重層的な植栽計画、せせらぎ遊歩道や豊川橋山手線沿いでの重点的な間口緑視率の確保などにより、緑豊かな景観の創出に積極的に取り組まれました。アースカラーの外壁色や屋外広告物の集約化、暖かみのある夜間照明など周辺の景観への配慮が十分になされました。

本建物で実現された数々の取り組みにより、地区の低炭素化や核となる景観づくりに大きく寄与した地区のシンボルとなる建築物となり、エコまち建築賞に相応しい物件として評価しました。

(2) 川西市消防本部・南消防署

本建築は、キセラ川西の東部に位置する消防署であり、公共施設としてエコまち運用基準に基づく取り組みが求められました。

低炭素分野では、太陽光パネル及びモニターの設置や、庇を兼ねたバルコニー及びルーバーの設置、吹き抜けや突き出し窓による通風構造、複層ガラスによる断熱性能の確保などに取り組み、低炭素建築物の認定、CASBEE (建築環境総合性能評価システム) Aランクの取得を実現しました。

緑・景観分野では、周辺の景観に配慮しつつ効果的なアクセントカラーを採用した意匠としたほか、消防車両の出入りで間口をできるだけ広く確保する条件下でも間口緑視率を 10%以上確保するよう努め、高木、中木、低木をバランスよく配置し、加えてキセラ川西のロゴマークを案内板などに採用されました。

消防署という安全性・機能が優先される用途であっても、地区内の公共施設として協議を重ねる中で様々な工夫に取り組まれたことにより、地区の低炭素化や核となる景観づくりに寄与しており、エコまち建築賞に相応しい物件として評価しました。

今回受賞しなかった物件(0邸、K邸、ロイヤルホームセンターキセラ川西店)のうち、ロイヤルホームセンターキセラ川西店については、建物の断熱性能の確保や BEMS (エネルギー管理システム) によるエネルギーマネジメントなど評価すべき取り組みもありましたが、残念ながら受賞物件には一歩及びませんでした。

しかし、これらの物件も一定の基準を満たした「高ラベリング物件」として評価し、引き続き、エネルギー削減やエネルギー別消費量の報告、緑の確保・維持管理などの取り組みに期待します。

キセラ川西整備事業は、完了に向け着々と事業が進められています。キセラ川西エコまち建築賞は4回目を経て、地区内に多数の受賞物件・高ラベリング物件が増え、地区の低炭素化・景観形成を先導する存在となっています。

今後、建築される物件においても、これらの取り組みを模範としつつ、キセラ川西が低炭素・景観で先導する素晴らしいまちとなるよう、住民・事業者・行政が建築後も取り組みを継続していくことを期待します。

キセラ川西 エコまち建築賞 選考メンバー

学識経験者 (3名)	関西学院大学 名誉教授	加藤 晃規
	大阪大学大学院 工学研究科 教授	山中 俊夫
	大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授	武田 重昭
地権者(1名)		安田 萬作
行政(1名)	川西市土木部 部長	酒本 恭聖